

作品カルテの作成と授業展開 —学習のポートフォリオ化—

芸術科（書道） 川瀬英幹

書道Ⅰの授業において、学びに伴う思考とその変化をポートフォリオにし、生徒自らの学習の深化と、臨書の変化を記録することを目的としたワークシートを作成。自らの学びを振り返り、成長変化を実感することで、学びに向かう力の涵養が目指せるのではないかと考えた。そこで、作品カルテと題したワークシートを用いた授業展開と生徒の学習状況を報告する。

＜キーワード＞ 書道Ⅰ ポートフォリオ 学びの記録

1. はじめに

書道の古典学習において、用語や筆法、背景など学ぶことは多い。また、対話的活動や鑑賞などやらなければならない活動も盛りだくさんである。本稿では、古典における学びと思考を記録させることで、生徒自身が自らの学びを容易に振り返ることができるようなワークシート作成を目指した。「作品カルテ」と題したのは、一つの作品について、印象や分析、変化を全て書き込む形式のワークシートにしているためである。同じ形式で授業を展開するため、振り返りの際、どの番号を見れば、自らの欲しい情報を得ることができるかが明確となる。また、繰り返し同じ学習パターンを行うことにより、初めて見た作品に対しても同様の思考のサイクルで鑑賞が行えるのではないかと考えた。

6種の楷書について授業を実施したが、この作品カルテを使用した授業展開全体を通しての今回のねらいは以下の点である。

- 1) 生徒自身の思考を記入する部分を明確にし、段階的に記入することで振り返りを容易にすること。
- 2) 生徒に初見の印象から作品を詳細に観察し鑑賞を深めるという一連の流れを習得させること。

2. 作品カルテの作成

作成にあたり、注意した点は以下の7点である。

- (1) どのような書体であっても、同様のスタイルで臨書学習ができること。
- (2) 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれに関連する入力箇所を作成し、評価につなげられるようにすること。
- (3) 初見の印象と学習後の印象を記録できること。
- (4) 自らの気づきと教師から提示した事項を分けて記入できるようにすること。
- (5) 生徒間で意見交換をさせ、その記録を残すこと。
- (6) 改善点を具体的に言語化させるとともに、実践させること。
- (7) どのような場面で、応用ができそうかを考えさせ、記録させること。

作品カルテ（実際に配布し、授業で使用したもの）

基本データ		年		姓	名
作品名		①題名の印象を書こう			
時代					
作者		②1枚目を自己評価しよう（数字に○をつけよう） 字形 0 1 2 3 4 5 構成 0 1 2 3 4 5 余白 0 1 2 3 4 5 用筆・運筆 0 1 2 3 4 5 線質 0 1 2 3 4 5			
③用筆・運筆の知識を知ろう 気づいたことを書こう		対象の書 知ったことを書こう		④2枚目を相互評価しよう（数字に○をつけよう） 字形 0 1 2 3 4 5 構成 0 1 2 3 4 5 余白 0 1 2 3 4 5 用筆・運筆 0 1 2 3 4 5 線質 0 1 2 3 4 5	
⑤より良く改善するためにどう直すか考えよう（例「どこ」をどう直すか（1））、その結果どのように印象が変わる（2）だろうか		⑥清書しよう ⑦清書を自己評価しよう（数字に○をつけよう） 字形 0 1 2 3 4 5 構成 0 1 2 3 4 5 余白 0 1 2 3 4 5 用筆・運筆 0 1 2 3 4 5 線質 0 1 2 3 4 5 ⑧清書を振り返って良い点・悪い点をまとめよう			
⑨手んだこと・感想、どのような創作に生かせると思うか、気づいたことを書こう		⑩再度確認して戻ったこと、考えたことを書こう			

作品カルテ改訂版（行書の学習から使用開始、⑤～⑨を修正）

基本データ		年		姓	名
作品名		①題名の印象を書こう			
時代					
作者		②1枚目を自己評価しよう（数字に○をつけよう） 字形 0 1 2 3 4 5 構成 0 1 2 3 4 5 余白 0 1 2 3 4 5 用筆・運筆 0 1 2 3 4 5 線質 0 1 2 3 4 5			
③用筆・運筆の知識を知ろう 気づいたことを書こう		対象の書 知ったことを書こう		④2枚目を相互評価しよう（数字に○をつけよう） 字形 0 1 2 3 4 5 構成 0 1 2 3 4 5 余白 0 1 2 3 4 5 用筆・運筆 0 1 2 3 4 5 線質 0 1 2 3 4 5	
⑤より良く改善するためにどう直すか考えよう（例「どこ」をどう直すか（1））、その結果どのように印象が変わる（2）だろうか		⑥清書しよう ⑦清書を自己評価しよう（数字に○をつけよう） 字形 0 1 2 3 4 5 構成 0 1 2 3 4 5 余白 0 1 2 3 4 5 用筆・運筆 0 1 2 3 4 5 線質 0 1 2 3 4 5 ⑧清書を振り返って良い点・悪い点をまとめよう			
⑨手んだこと・感想、どのような創作に生かせると思うか、気づいたことを書こう		⑩再度確認して戻ったこと、考えたことを書こう			

データを多く残すことで、学びの記録をつけるだけでなく、教員側の評価も容易になることを想定して作成している。また、(6)のように、具体的に言語化させることで、筆法や書の特徴に目を向けさせるよう工夫した。同じ形式を繰り返し扱うことは、生徒が学びの中で、次の行動に対して予測を立てやすくなるため、初見の古典であっても、印象→臨書→分析→知識→臨書→相互対話→自己批評→練習・清書→ふりかえり→再鑑賞といった活動を行えるよう意図した。

3. 授業展開

作品カルテを用いた古典学習の授業展開は2時間（100分）で計画した。

時間	No	生徒の活動	教師の動き
5分		本時の内容を知る 墨を磨って準備をする	本時で扱う古典と教科書の該当ページを紹介する
3分		基本データ部分を記入する 時代や場所、人物の関連知識を知る	事前に板書を済ませておく 時代や作者の追加説明を行う
2分	①	教科書の写真を見て初見の印象を記入する	他の掲載ページも知らせる
10分	②	1枚目を臨書する 書けたら自己評価する	細部まで再現するために注意だけ促す
10分	③	用筆・運筆、構成など書写で習ってきた字との違いなど、書いてみて「気づいたこと」を記入する	机間を回り気づいたことをiPadで撮影する
	③	また、「対象の書」に、臨書をする際に注意すべき部分や、結体の位置関係などの気づきを書き込む	用筆・運筆の特徴や結体などの構成に関するポイントを提示する
10分	③	提示されたポイントを「知ったこと」の欄に記入する	示した特徴を意識的に書くよう指示する
10分	右	追加で気づいたことなども「知ったこと」に記入する	
10分		知ったことを踏まえて2枚目を臨書する	
5分	④	2枚目の臨書をペアと交換し、相互にできている部分を指摘しあう 同時に口頭で改善点も指摘する	
	⑤	改善点を具体的に挙げ、変化を想定して文章化する	直す部分を具体的に挙げるよう指示する
20分	⑥	練習して清書を書き上げる	撮影した気づきをモニターで提示、共有する
10分	⑦	清書を自己評価する 清書のできた点、やりきれなかった点を記入する	机間を回って指導する
	⑧	教科書を再度見直して鑑賞をする	
	⑨	印象の変化や気づきを記入する	
	⑩	この古典を通して学んだことやどのような場面に用いることができそうな書かを考え、記入する	
12分		1枚目・清書・プリントの提出と片付けを行う	回収したプリントから、気づきや感想、鑑賞した印象の変化で特徴的なものをモニターで提示、共有する
3分		プリントを通して、他生徒の印象や気づきを共有する	

2時間続きの授業のため、100分で授業を計画している。尚、Noの欄は、作品カルテの番号を示している。特別な授業展開はしておらず、生徒の活動の切れ目に作品カルテへの記入を入れている。

また、プリントの評価としては以下のようなルーブリックを作成し、使用した。

番号	項目	1 (指示を満たしていない)	2 (指示を満たしている)	3 (指示以上に考えている)
1	初見印象	記述していない 内容が著しく薄い(単語のみなど)	自らの考えに即して記述している	
2	自己評価1	正しく評価していない(考えず全部1とか) 記述がない	評価している	
3	特徴(発見)	書いてない 発見しようとしていない	自ら発見したことが書いてある	書法や用筆、刻石の特徴など見るべきポイントからの発見が為されている
3	特徴(発見) 作品画像	書いてない 発見しようとしていない	「知識」に関連した補助線が引いてある	自らの理解の補助となる線や書き込みがされている
3	特徴(知識)	メモを取っていない	メモが書いてある	発見と知識の関連性がわかるようにメモが書かれている
4	相互評価	指摘したポイントが的外れ	妥当な指摘が1つある	妥当な指摘が複数ある
5	改善点A	指示どおり書かれていない 改善方法が考えられていない	改善方法が書かれている	妥当な改善方法にたどり着いている
5	改善点B	改善した結果に思い至らない	改善した結果を想像しようとしている	改善した結果に思い至り、適切にイメージしている
6	清書	特徴を抑えられていない	半分程度の特徴を踏まえて清書している	半分以上の特徴を踏まえて清書している
7	自己評価2	正しく評価していない	評価している	
8	振り返り	自らの作品を振り返ろうとしていない	反省点しか目についていない 上手くいった所しか目についていない	認めるべき点と反省すべき点を正しく理解し、振り返りができている
9	鑑賞	学んだことを活かした鑑賞ができていない	学んだことを踏まえて鑑賞している	学んだことを活かして鑑賞し、知識と視点の深まりを感じられる鑑賞文になっている
10	理解・発見	授業の振り返りができていない 自らの考えが書けていない	授業のまとめとしての振り返りと、主体的な考えのまとめが書けている	振り返り・考えが書かれており、創作への発展的な考えも有することができた

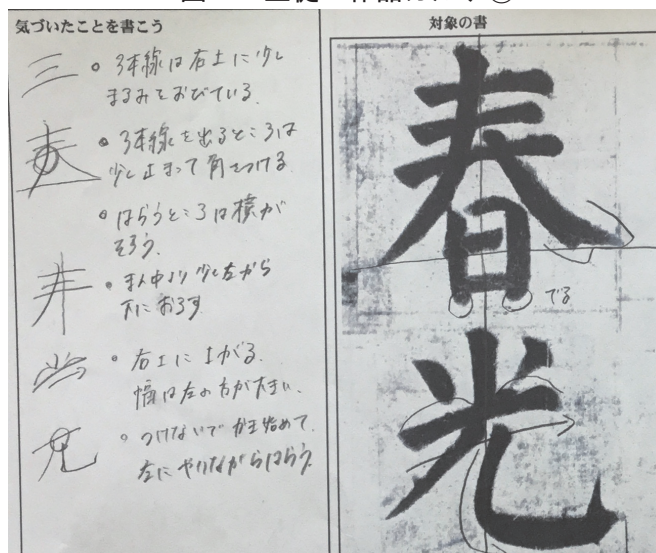
新学習指導要領で示されている目標との関連として、次のようにイメージして作成している。

目標	プリントの番号
思考力、判断力、表現力等	1、2、3(発見)、3(作品画像)、4、5、7、10
知識	基本データ、3(知ったこと)、8、9
技能	2(1枚目の臨)、4(2枚目の臨書)、6清書

4. 記入の実際と臨書への効果

生徒作品の改善について、一定の効果があつた。図1を参照すると、生徒Aは「春光」の結体に注目し、図示しながら細部を観察している。この後、③(知ったこと)の欄に、教師からのポイント説明や、蔵鋒や蚕頭燕尾などの用語説明を行っている。2枚目を臨書し、相互批評の後、図2の改善点を書いている。1枚目と比べると、⑤で意識したものが表現できている。結果、図3のような清書となったと考えられる。自己分析とその実践が上手く作用していると考えられる。

図1 生徒A作品カルテ③



⑤より良く改善するためにどう直すか考えよう (何(どこ)をどうするか (A))、その結果どのように印象が変わる (B) だろうか

あとがし、字を細にする。蚕頭燕尾のつまるように、→ 筆を動かす。
光の5画目のはねを → 上によがりと筆をたてにする。

形が整って はね、はらいの特徴的な所が表現できるよになる。

図2 生徒A作品カルテ⑤

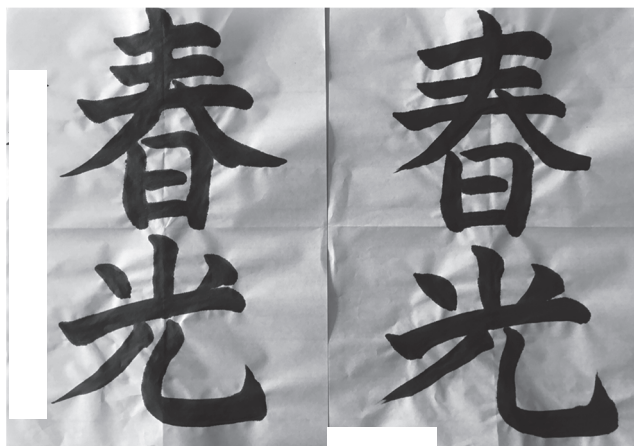


図3 左：清書 右：1枚目
生徒A作品

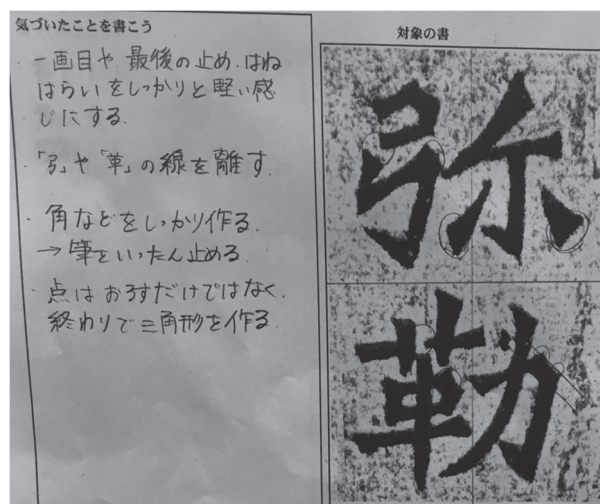


図4 生徒B作品カルテ③

また、牛轭造像記の回では、図4のように意識した生徒は、図5のように修正課題を設定し、練習に取り組んだ結果、図6のように変化した。

1枚目を書いた後に、図4の気づきを書き、練習を行っている。起筆や止め・はね・払いなど注意を払うようにした部分や、図5にあるようにバランスや「力」の部分等が図6の清書では修正されている。

記録を取りながら臨書していくため、自らが設定したポイントへ意識が注がれ、練習できたことがわかる。

図5 生徒B作品カルテ⑤

「弥」の左と右のバランスを考える。書きはじめをもっと四角にする。
「カ」の角をもっと四角にする。
「尔」の点をもっと長くする。

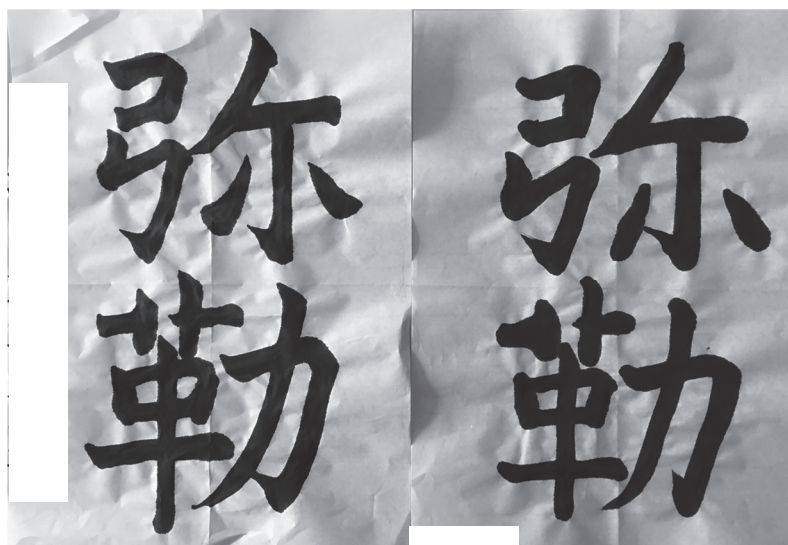


図6 左：清書
右：1枚目
生徒B作品

いずれの回も、自らの課題を焦点化し、ポイントを抑えた修正を行うことにより、練習から清書への変化を見ることができた。今後は、使用される用語の分析や、鑑賞の視点の変化も追って研究したいと考えている。

本来であれば、このカルテを使用し、創作作品の制作を終えている予定だったが、新型コロナウイルスによる休校の影響で、単元の順番を入れ替えて実施したために、執筆時に創作作品まで至らなかった点は悔やまれる。図7、8のように、作品カルテ⑩の部分では、気づきや感想、どのような場面で使えるかを考えさせている。そのため、これらワークシートを振り返ることで創作への転用が容易になると考えられる。また、授業内容を思い返す縁となるため、筆法等も関連して振り返るきっかけとなるだろう。ポートフォリオの有効的な活用を図れると考える。

図7 生徒C作品カルテ⑩

図8 生徒D作品カルテ⑩

5. まとめ

学習を細分化してポートフォリオ化したことにより、生徒の思考が詳細に記録される。これらの資料から、視点の変化や鑑賞の深まり、技能の変化について評価に利用できる可能性があると感じた。さらに、作品カルテ⑩では、どのような場面で活きる書かを考えて記録させているため、創作や日常への転用も振り返りにより容易となるだろう。よりよい活用法を探究し、生徒の学びの深化を目指したい。

また、生徒自身、書道における古典学習を、ポイントを絞って学習することで、書写や筆に馴染みがなく、不得意だった生徒でも、向上や変化が明確となるため、意欲的にプリントへの記入や臨書への取り組みができていた。

今後の課題としては、共有と対話の方法である。プリントを利用しているため、即時性が低く、生徒の作業や活動を停止させてからでしか、共有の準備をすることができない。また、対話についても、共有がもたつくことで、大きく時間を使ってしまうことになる。ここを解決するためにも、次年度に向けて作品カルテの電子化を目指したいと考える。その他、創作への転用方法、評価に関しても検討を重ねて、作品カルテの修正も行っていきたい。